

臼杵市特定居住促進計画(案)に対するご意見と市の回答

提出 2件 (郵送、メール 各1件)

パブリックコメント実施期間: 令和8年2月13日 ~ 令和8年3月13日

No.	項目	意見内容(概要)	回答
意見提出者1	1ページ、6ページ	<p>1. 拠点施設の実態に即した再整備と情報発信の強化 計画書において、旧真光寺(1-1)が「休憩所・ワーケーションスペース」として位置付けられています。現状の利用状況を踏まえると、今後の位置付けや活用方法について整理を行う余地があるのではないかと考えます。</p> <p>(1)利用目的の明確化 現施設は現在、「休憩所」としての認識が比較的強く、ワーケーション利用が可能であることについては十分に周知されているとは言い難い状況にあります。 そもそも、現状は畳中心の室内であり、長時間の作業を想定したデスク・チェア・電源環境等については、ワーケーション利用者のニーズを十分に満たす環境にあるとは思えません。 さらに、計画に示されている他の特定居住拠点施設や関連施設についても、観光利用や市民の憩いの場との併用により、静かな作業環境を確保することが難しいです。 ワーケーション利用者や二地域居住者の誘致を進める上では、一定水準の作業環境を整備することが重要です。例としては、臼杵造船が運営する USUKI BERTH のような施設が、機能面において参考となると思います。 そのため、「Wi-Fi環境があればワーケーション利用が可能」といった考え方にとどまらず、利用目的に応じた施設整備のあり方について検討することが望ましいと考えます。 なお、旧真光寺については、現状の施設特性を踏まえ、観光客の休憩施設としての役割だけで、無理にワーケーション利用を謳わなくてもよいと思います</p>	<p>本計画の拠点施設に関する貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。 いただいたご意見について、利用目的に応じたハード・ソフト両面での環境整備のあり方を検討してまいります。また、施設ごとの特性を活かした位置付けの明確化と棲み分けについても、今後の参考とさせていただきます。</p>
同上	1ページ、5ページ、7ページ	<p>2. サーラ・デ・うすきの潜在能力を活かした実証的活用 サーラ・デ・うすきには、キッチン、加工施設、放送スタジオ(ほっとスタジオ)など、他地域にはあまり見られない特色ある設備があります。 これらの施設をより戦略的に活用することで、臼杵ならではの二地域居住モデルを構築できる可能性があると考えます。</p> <p>(1)「実証・挑戦の場」としての位置付け 移住や二地域居住を検討する段階において、 ・料理人や飲食業希望者が試作品の開発や試食会を行う場 ・ITクリエイター等がほっとスタジオを活用して地域情報を発信する場 ・空きスペースを低コストでコワーキングスペースとして活用する取り組み など、「臼杵で挑戦することができる場」として施設を活用する仕組みを検討しては如何でしょうか。 市として、二地域居住を検討する方に対し一定期間の利用支援や体験制度を設けることで、利用者と地域双方にメリットのある仕組みづくりが期待できます。 このような取り組みにより、サーラ・デ・うすきを「二地域居住の実証的な活動拠点」として活用することは、有効な施策の一つと考えます。 「移住前に挑戦できる環境」があることは、臼杵にとって大きな魅力となる可能性があります。</p> <p>(2)滞在プログラムのパッケージ化 「ほっとさんの家」等のおためし住宅や市内の宿泊施設と施設利用を組み合わせ、 ・職(試作・制作活動) ・住(滞在) ・食(地域食材の活用) ・遊(観光・地域交流) を一体化した滞在プログラムを構築することで、ワーケーションにとどまらない臼杵ならではの滞在体験を創出できると思います。 例えば、市内には 臼杵ゲストハウス のように低価格で比較的利用しやすい宿泊施設もあります。一定の滞在支援制度を組み合わせることで、更に利用促進につながる可能性があります。 また、サーラ・デ・うすきは市中心部に位置しているため、観光客との交流や地域イベントへの参加など、臼杵の文化や雰囲気に触れる機会も多く、滞在者が地域を理解する上でも適した環境であると考えられます。</p>	<p>サーラ・デ・うすきの特色ある設備を活かした、大変魅力的で具体的なご提案をいただき感謝申し上げます。 移住や二地域居住を検討されている方々に対して、「移住前に地域で挑戦できる環境」を提供することは、本市への関心を高め、継続的な関わりを生み出す上で非常に有効なアプローチであると考えます。 今後、施設管理者や関係者と連携を図りながら、ご提案いただいた「実証・挑戦の場」としての活用や、滞在プログラムの構築・支援の仕組みづくりについて、実現可能性を探ってまいります。</p>

臼杵市特定居住促進計画(案)に対するご意見と市の回答

提出 2件 (郵送、メール 各1件)

パブリックコメント実施期間： 令和8年2月13日 ~ 令和8年3月13日

No.	項目	意見内容(概要)	回答
同上	全体	<p>先進事例に学びつつ「臼杵独自の価値」を明確化 他地域の成功事例に学ぶ事も参考になります。例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神山町(「地方創生の聖地」として知られています。町内全戸に光ファイバーが整備され、都会と遜色ないネット環境が整っていることもあり、IT系のベンチャー企業やクリエイター、田舎暮らしを叶えたい人が集まっています。) ・ 隠岐の島(「大人の島留学」島の暮らしと仕事に挑戦する20~29歳のお試し移住者。自身の想いややりたいことと、島のニーズを重ね合わせ、3ヶ月~1年を通したチャレンジに取り組む。また海士町オフィシャルアンバサダー制度も参考になると思います。)などは、施設整備以上に「人材育成」「コミュニティ設計」に重点を置くことで成果を上げています。 <p>(1)臼杵の強みの具体化 臼杵市には、以下のような地域資源があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内広域に整備された通信インフラ ・温暖で比較的災害の少ない気候 ・「土づくり」を基盤としたほんまもん農業 ・農業・漁業や醸造業などの地域産業 <p>これらを具体的な体験プログラムとして整理することで、臼杵ならではの潜在価値を明確に打ち出すことができると思います。</p> <p>例として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農泊体験 ・農産物の収穫体験 ・漁業・養殖体験 <p>など、地域産業と連携した滞在型プログラムの体系化が考えられます。</p> <p>(2)既存資産を活かした機動的な拠点整備 サーラ・デ・うすぎに関しては、大規模な改装を必要とせず、既存の空きスペースにパーテーションと什器を配置するだけで、十分なコワーキング機能を確保できます。このように、現状の施設を活かして最小限のコストで最大の効果を生む「拠点整備」が可能である点は、他施設にはない極めて高い実効性と優位性を兼ね備えていると思います。</p> <p>結び 本計画は、単なる人口対策にとどまらず、「臼杵と継続的に関わる人をどのように増やしていくか」という重要な戦略であると理解します。 施設整備そのものを目的とするのではなく、地域で挑戦できる環境をどのように整えるかという視点をさらに強化することで、臼杵独自の二地域居住モデルを全国に発信できる可能性があると考えます。</p>	<p>他自治体の先進事例を踏まえた、本市の強みを活かすためのご提案をいただきありがとうございます。</p> <p>ご指摘の通り、二地域居住の推進においては、ハード面の整備だけでなく、地域の人々との交流やコミュニティへの参加といったソフト面(人材育成やコミュニティ設計)の充実が不可欠です。本市が誇る「ほんまもん農業」や豊かな自然、地域産業を活かした体験プログラムの体系化は、臼杵独自の価値を明確に打ち出すための重要な施策として、今後の計画推進に活かしてまいります。</p> <p>また、拠点整備につきましても、最小限のコストで効果を生み出す非常に実効性の高いアイデアとして受け止めており、今後のコワーキング環境整備の検討において参考にさせていただきます。</p>
意見提出者2	全体	<p>1. 二地域居住施策に対する懸念と疑問 〈効果への疑問〉 二地域居住が臼杵市の活性化にどの程度つながるのかわからない。移住者とのミスマッチやトラブルのリスクも懸念される。 〈経済的ハードル〉 二重生活には移動費や維持費などの負担が大きく、決断のハードルが高い。 〈ターゲットのズレ〉 富裕層向けの「二拠点生活」と、市が求める「地域活性化や事業承継を担う人材」との間にギャップがある。なぜ「二地域居住」から始める必要があるのか、合理的な理由が見えにくい。 〈就業機会の不足〉 移住にはまず「働く場」が必要。二地域居住にこだわらず、従来のU・J・Iターン制度との柔軟な併用を検討すべきではないか。</p>	<p>1. 二地域居住施策の位置づけと就業・移住支援について ご指摘のとおり、二地域居住には経済的なハードルや、市が求める人材とのミスマッチといった課題があることは認識しております。本計画における「二地域居住の促進」は、いきなりの完全移住が難しい方に対し、まずは臼杵との関わりを持っていただくための「入り口(関係人口の創出)」の一つとして位置づけています。</p> <p>一方で、移住・定住には「働く場」の確保が不可欠であるというご意見はもっともなご意見と考えます。二地域居住の推進のみに偏ることなく、従来のU・J・Iターン支援や、市内での就業・創業支援制度と柔軟に連携・併用し、実効性のある移住定住対策を進めてまいります。</p>

臼杵市特定居住促進計画(案)に対するご意見と市の回答

提出 2件 (郵送、メール 各1件)

パブリックコメント実施期間: 令和8年2月13日 ~ 令和8年3月13日

No.	項目	意見内容(概要)	回答
同上	全体	2. アピールポイントと現状のギャップ <「豊かな自然と食文化」の訴求について> 他自治体も同様のアピールをしており差別化が難しい。また、実際の自然環境(荒れた農地や海岸)や食文化(魚介類の減少、気軽に郷土料理を楽しめる店の不足)の現状と、PRイメージにギャップがあれば逆効果になりかねない。 <ふるさと再生の主体> 移住者がすぐに地域課題(一次産業の担い手不足など)を解決してくれるのではなく、地域の維持・再生はあくまで「地域住民が中心」であるべき。	2. 臼杵の魅力発信と、一次産業などの現状について 「豊かな自然と食文化」をアピールする裏側で、農林水産業の担い手不足や耕作放棄地の増加といった厳しい現実がある点について、重く受け止めております。 イメージ先行で来訪者の期待を裏切ることがないよう、地域コミュニティの維持や「ほんまもん農産物」の推進など、地域資源の保全と担い手育成に、市民の皆様とともに取り組んでまいります。
同上	全体	3. 臼杵市の魅力を活かした具体的な提案 <野津地域のモデル地区化> 教育環境や自然、アクセスが良く、リモートワークや新規就農のポテンシャルが高い野津地域をモデル地区とし、定着に向けた手厚い支援(安定収入やQOL向上のサポート)を行う。 <中心市街地(八町全域)の再生> 空き家を利活用し、「ほんまもん野菜」や地元の味噌・醤油を使った素朴な手料理を気軽に味わえる店を誘致する。共通の看板(サイン)を設けるなどして、観光客が歩いて楽しめる通りにする。 <野津エリアでの農業体験(市民農園)> 耕作放棄地を活用して、週末に気軽に通える「市民農園」や「観光農園」を整備する。古民家をリフォームした宿泊施設と組み合わせることで、農業体験を通じた愛着の醸成から移住へとつなげる。	3. 野津地域の活用、中心市街地の再生、農業体験のご提案について 野津地域での農業体験(市民農園等)や古民家活用、中心市街地(八町全域)における空き家を活用した「ほんまもん野菜」を提供する店舗の誘致など、非常に具体的に魅力的なアイデアをご提案いただきありがとうございます。 観光客や移住希望者が親しみを感じられるような居心地の良い空間づくりは、本市が目指す方向性と合致しております。いただいたアイデアは庁内の関係部署で広く共有し、今後の空き家対策や観光振興、農業振興策を検討する際の重要な参考とさせていただきます。
同上	全体	4. まちづくりの新たな視点 <デュアルプランの模索> 人口が「漸減するケース」と「激減するケース」の両方を想定した将来像を今から模索すべき。 <人間関係の構築支援> 定住には地域との人間関係の構築が不可欠であり、そのためのサポートが必要。 <インフラ整備と「事前防災」の視点> 案内表示の改善や公共施設のリニューアルを進めるとともに、南海トラフ地震などに備えた「事前防災」の視点をまちづくり(都市計画、産業、観光など)の全分野に取り入れる。これにより、ユニークな発想が生まれ、市民の安心にもつながる。	人口減少の複数シナリオ(デュアルプラン)の想定や、「事前防災」の視点をまちづくりに取り入れるべきとの考えは、非常に重要であると認識しております。 南海トラフ地震等の災害リスクを抱える本市において、インフラ整備や公共施設のあり方、観光、市民生活などあらゆる分野に「被災後を見据えた事前準備」の視点を組み込むことは、市民の皆様々の安心に直結します。国の枠組みにとらわれず、本市独自の総合的な視点で計画を推進していく参考とさせていただきます。